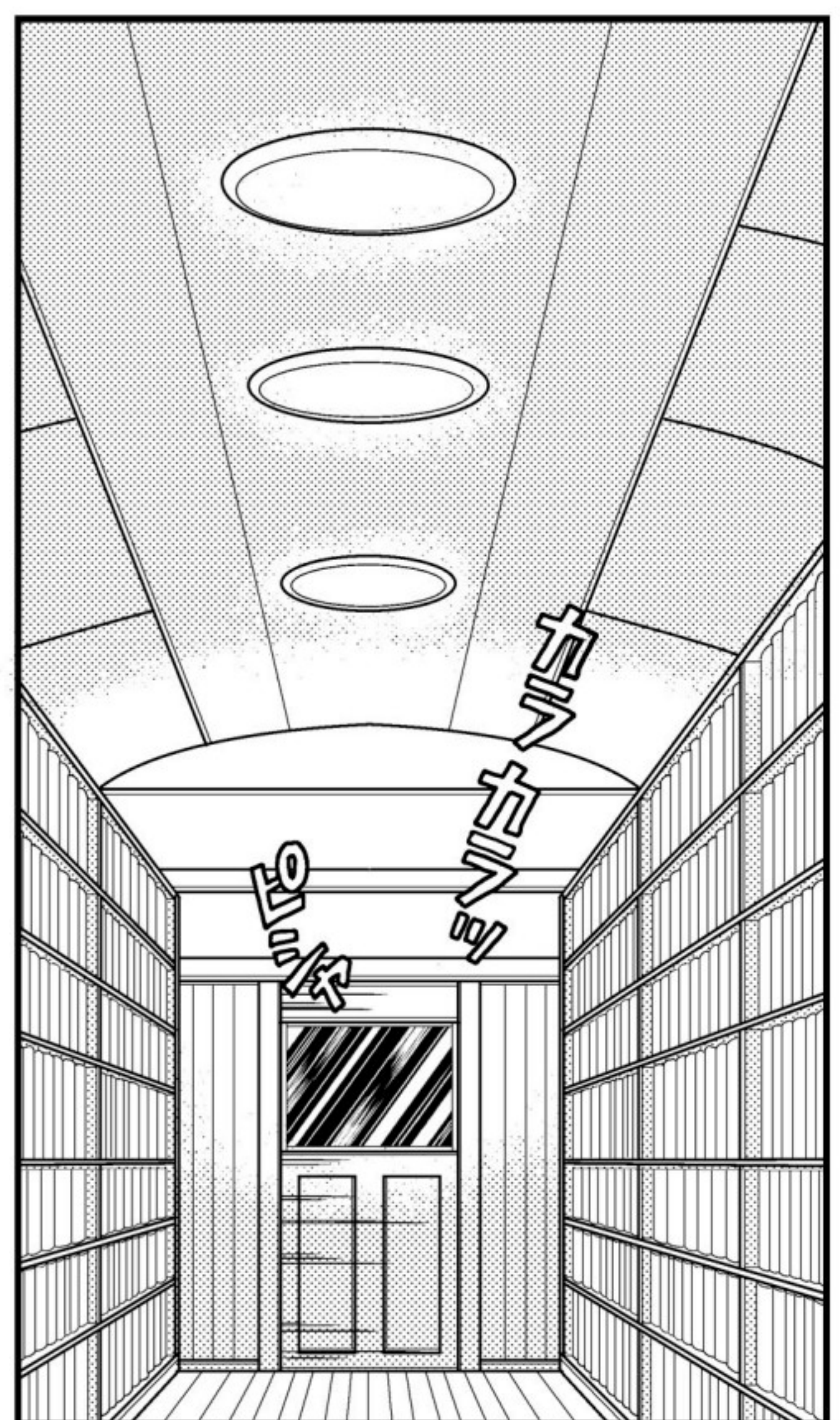
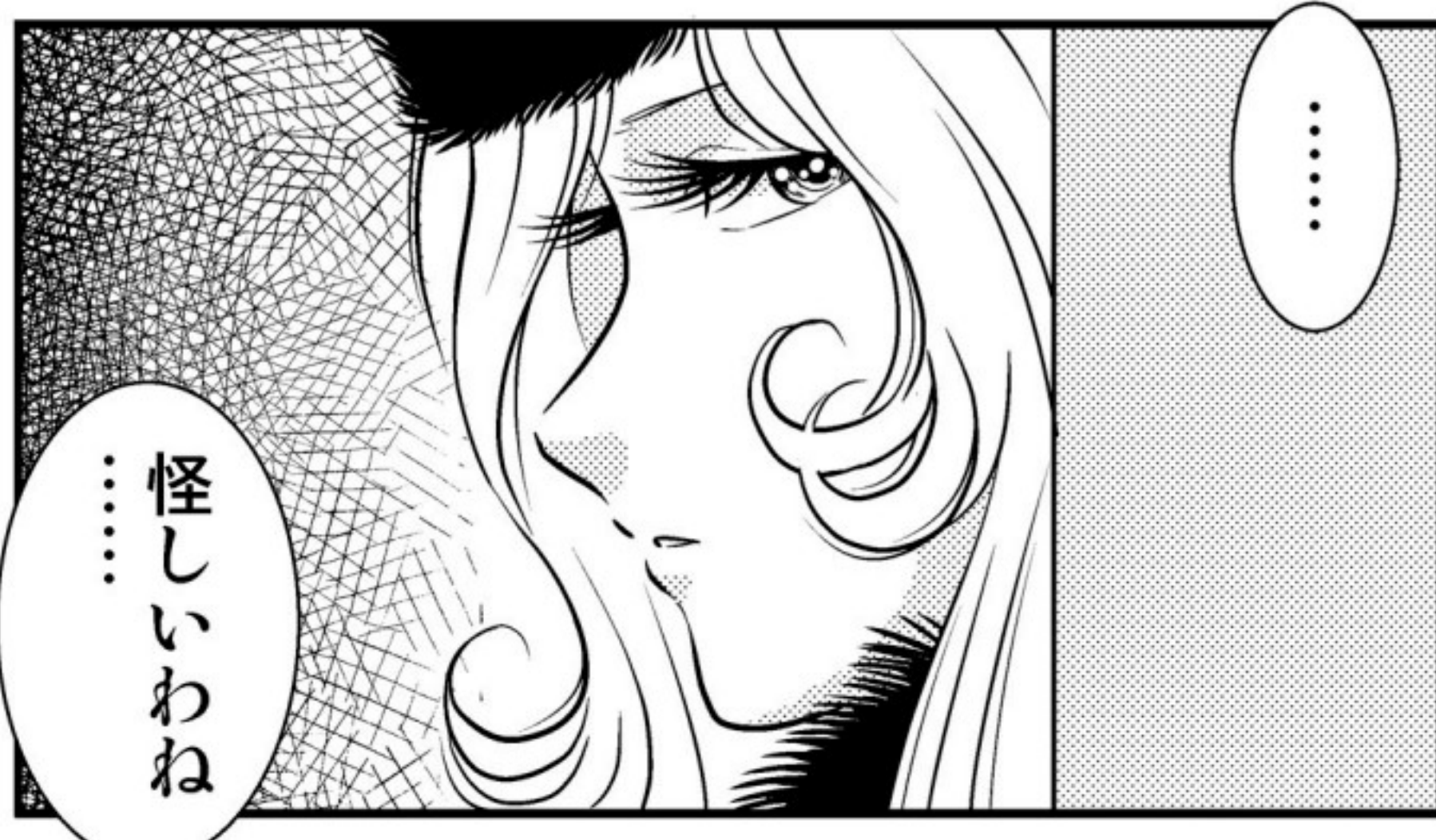
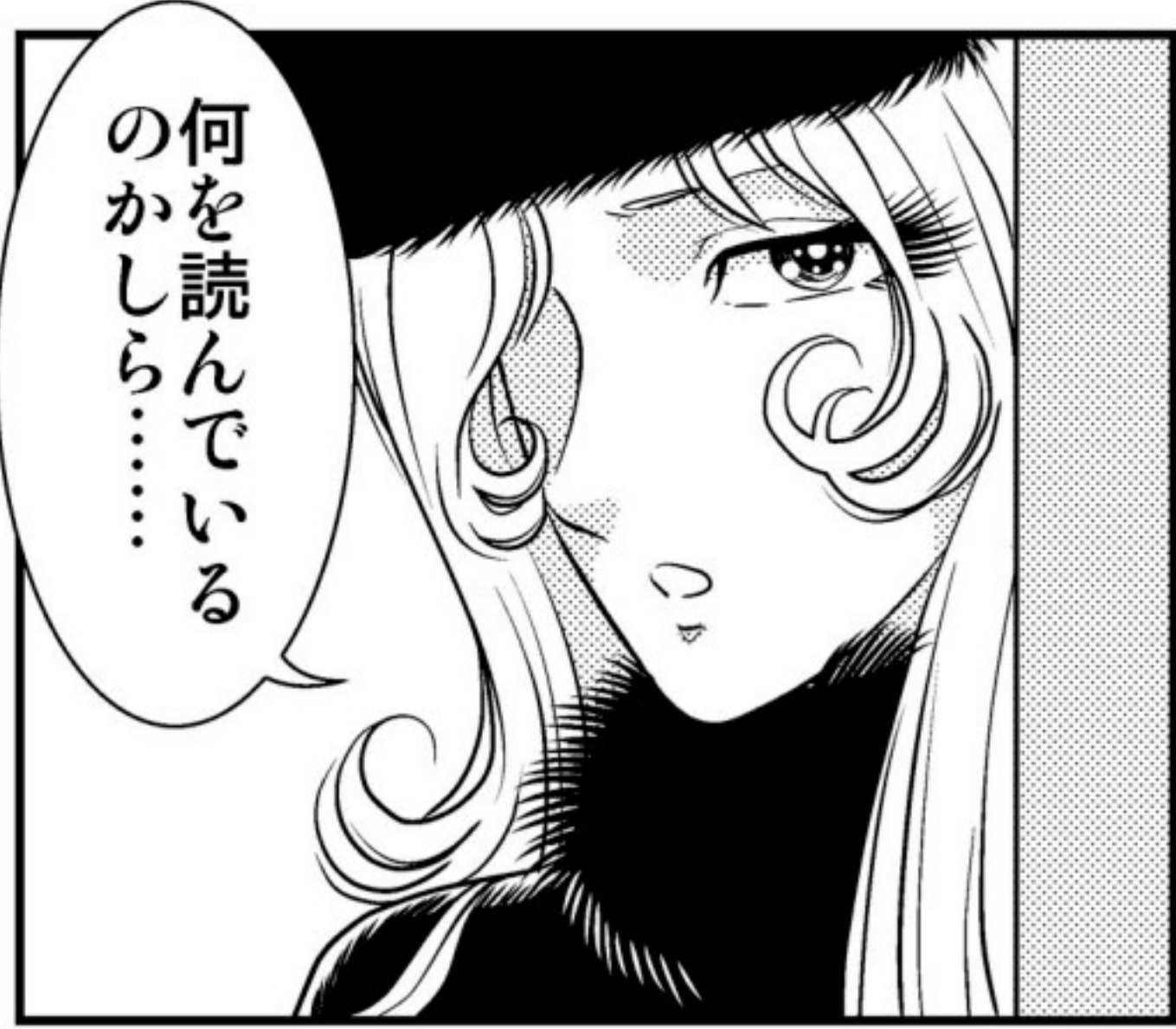


Maelzel Story 2

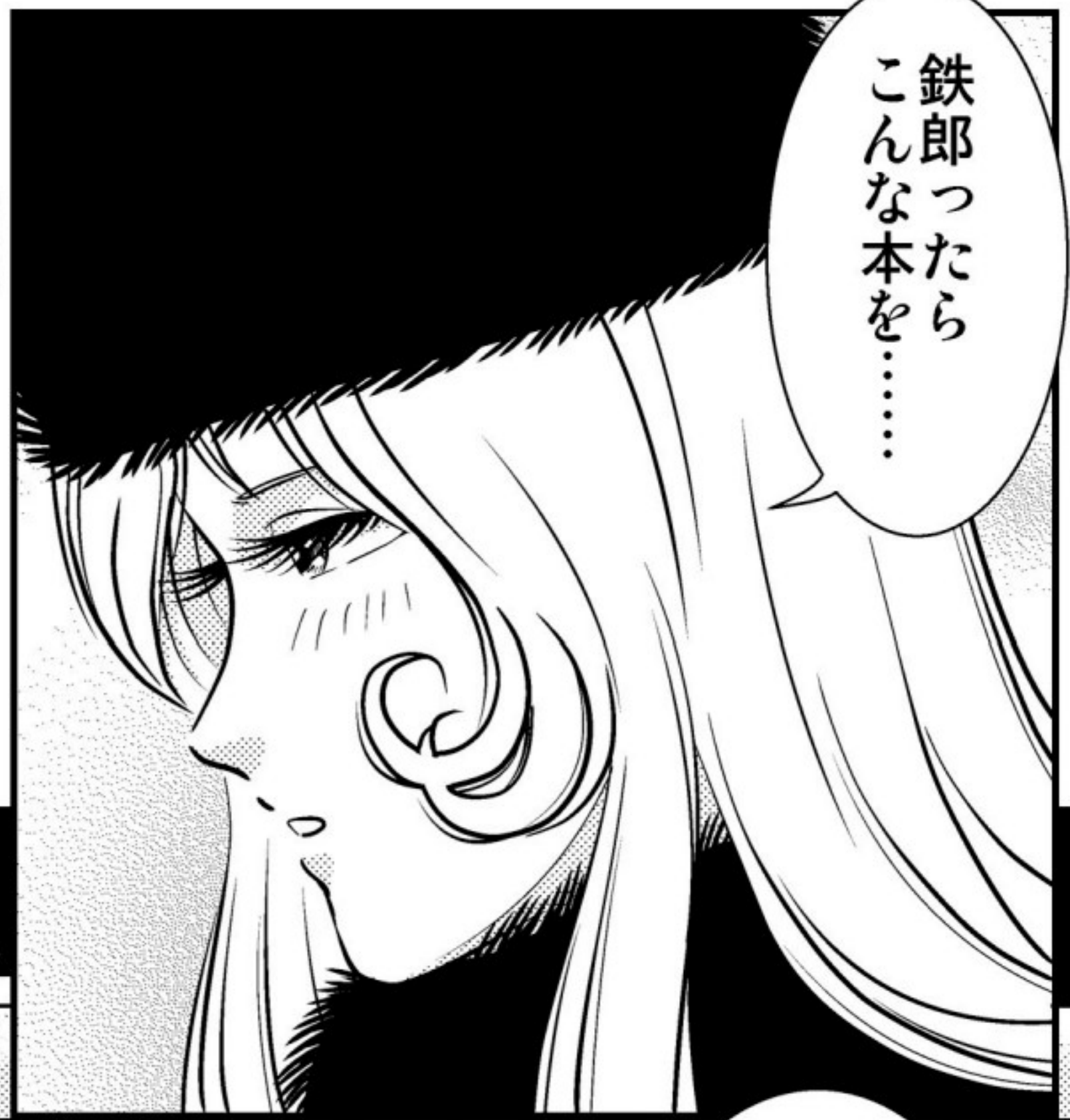
from GALAXY EXPRESS 999 with LOVE



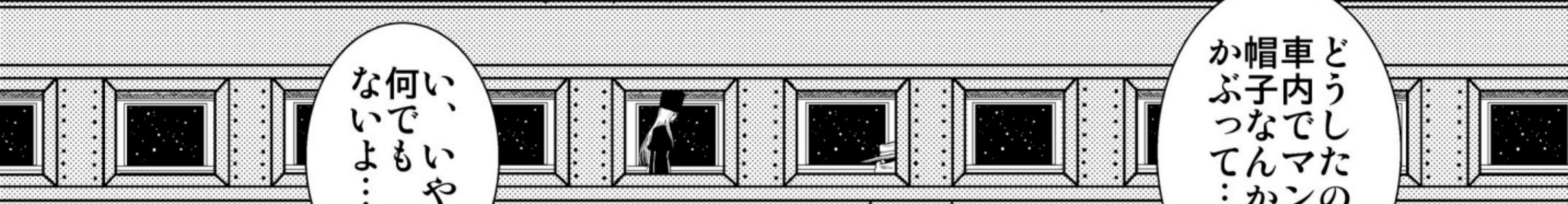




男の子だもの
仕方ないわね



鉄郎ったら
こんな本を……



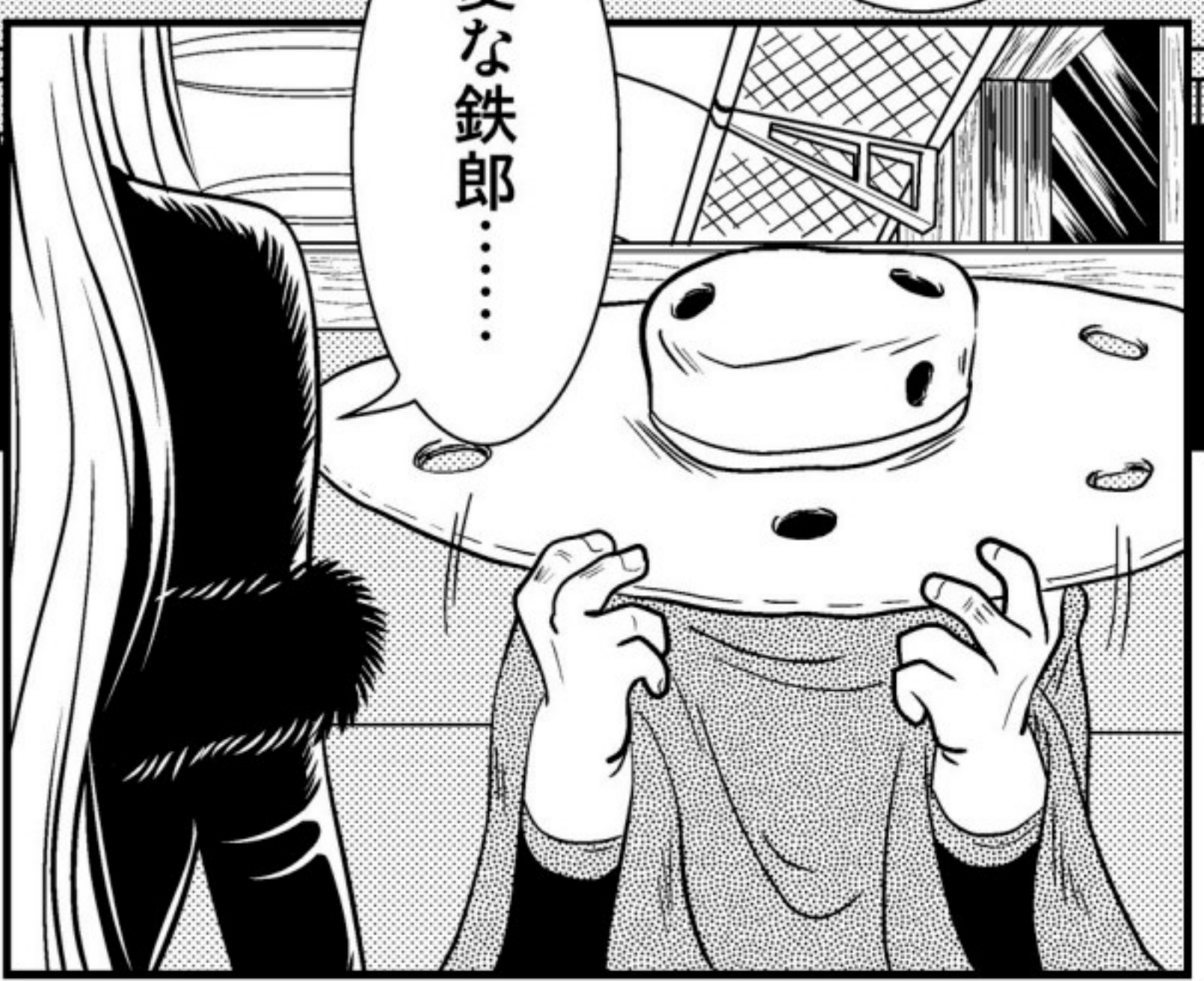
い、いや……
何でもないよ……

どうしたの!?!
車内でマントに
帽子なんか
かぶって……

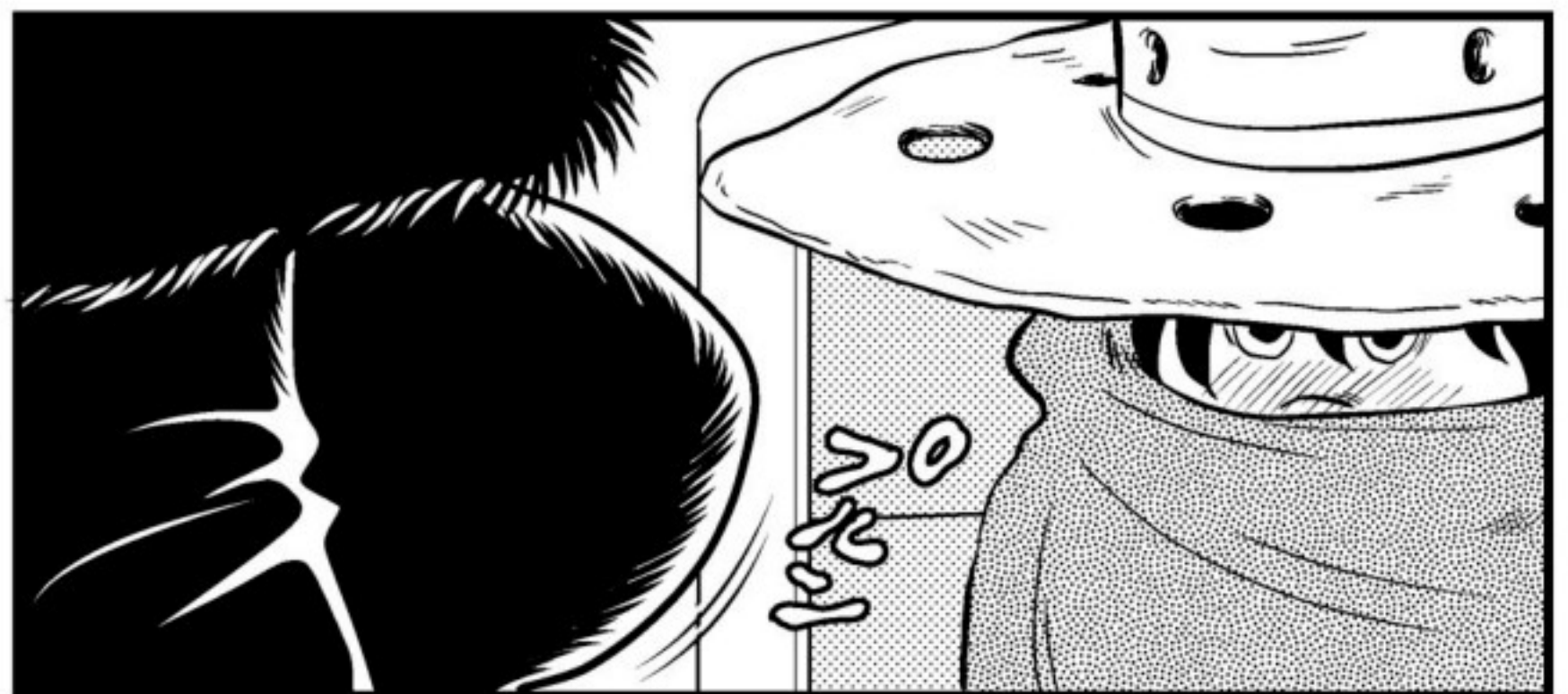


しょうがない
子ね……

ウフ……
やっぱり私を
見てるわ……

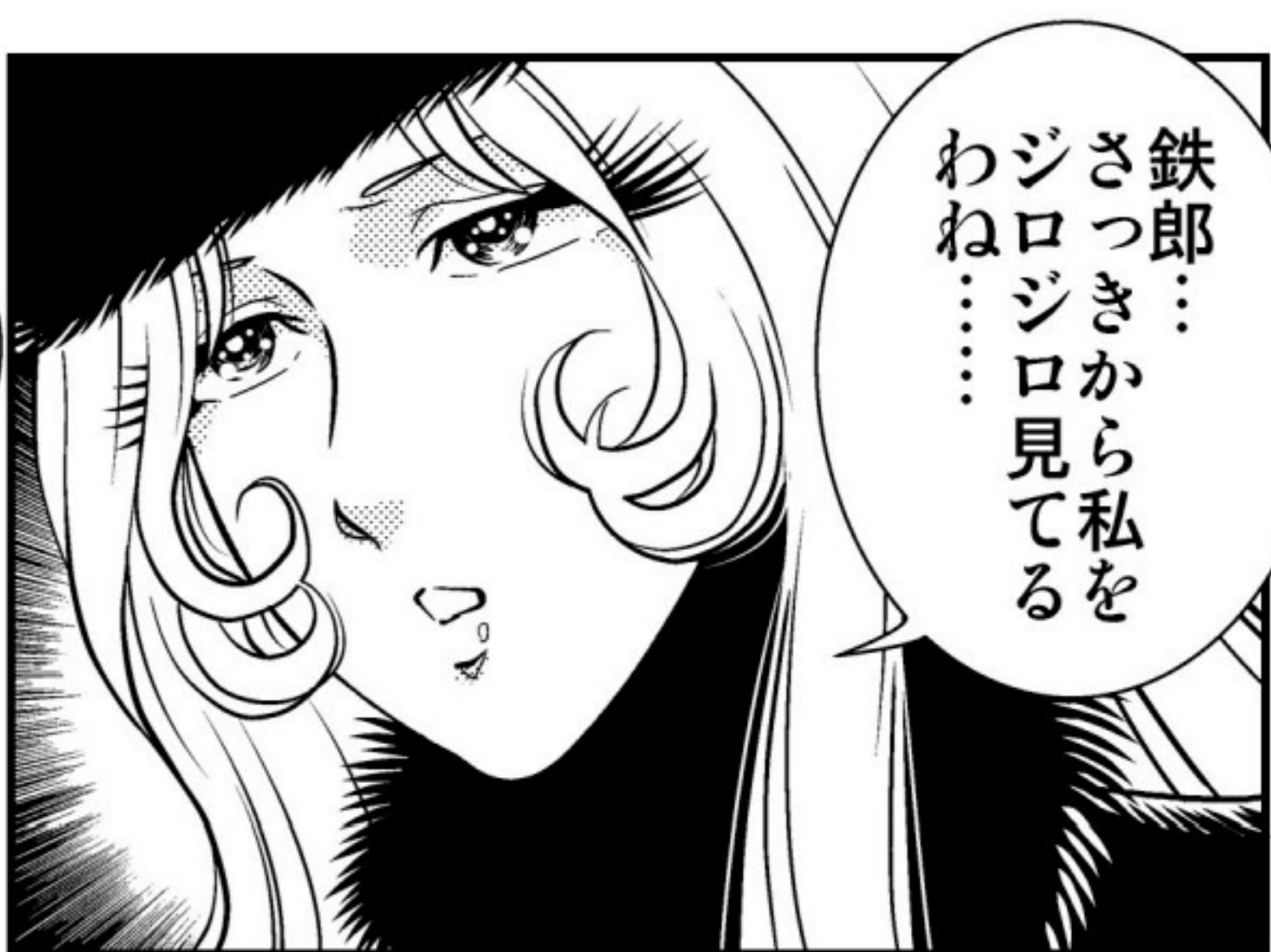


変な鉄郎……

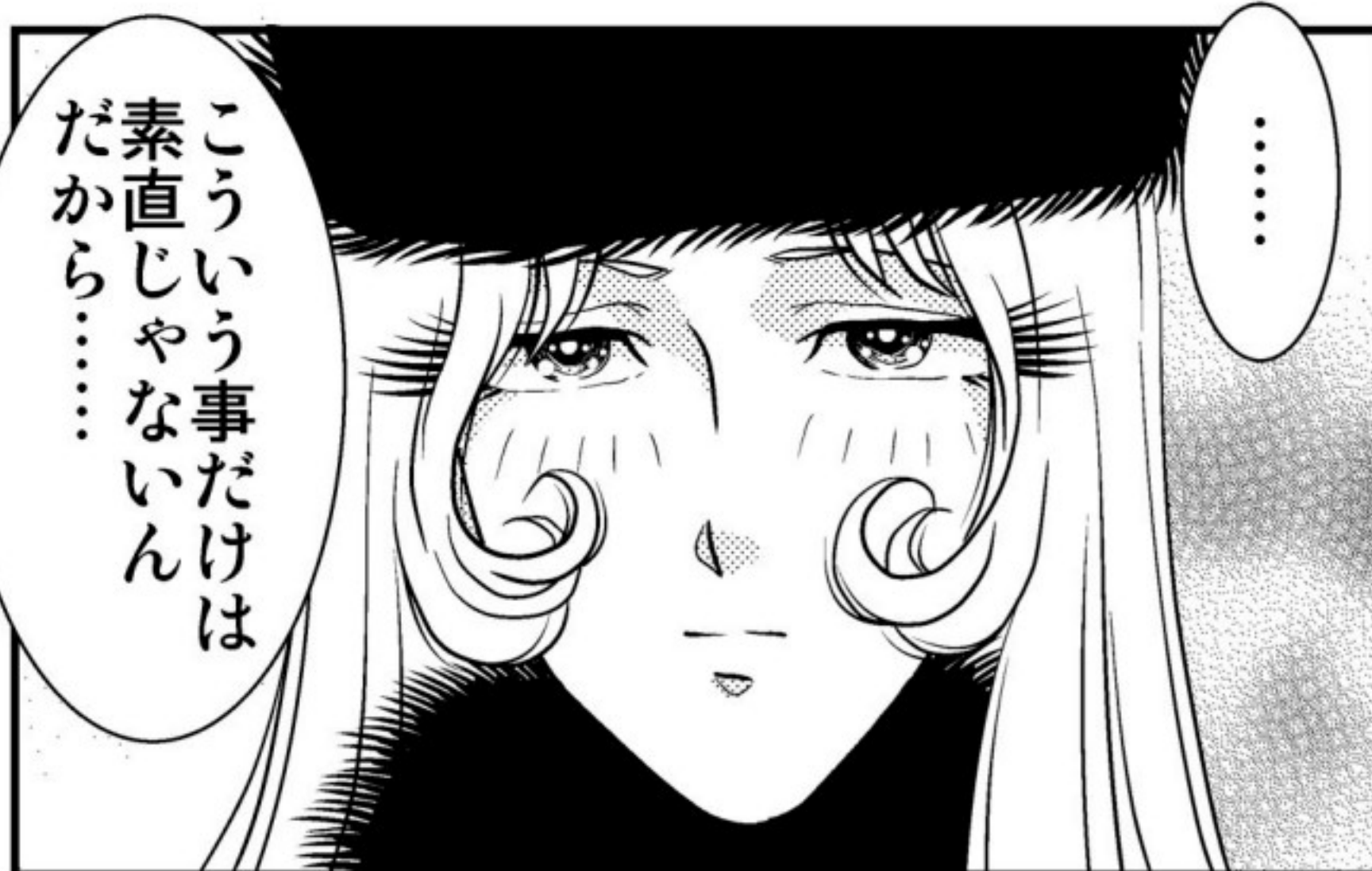




え…
いいいや…
何でもないって
メートル…



鉄郎…
さつきから私を
ジロジロ見てる
わね…



…
こういう事だけは
素直じゃないん
だから…



ない、何でも
ないったら！

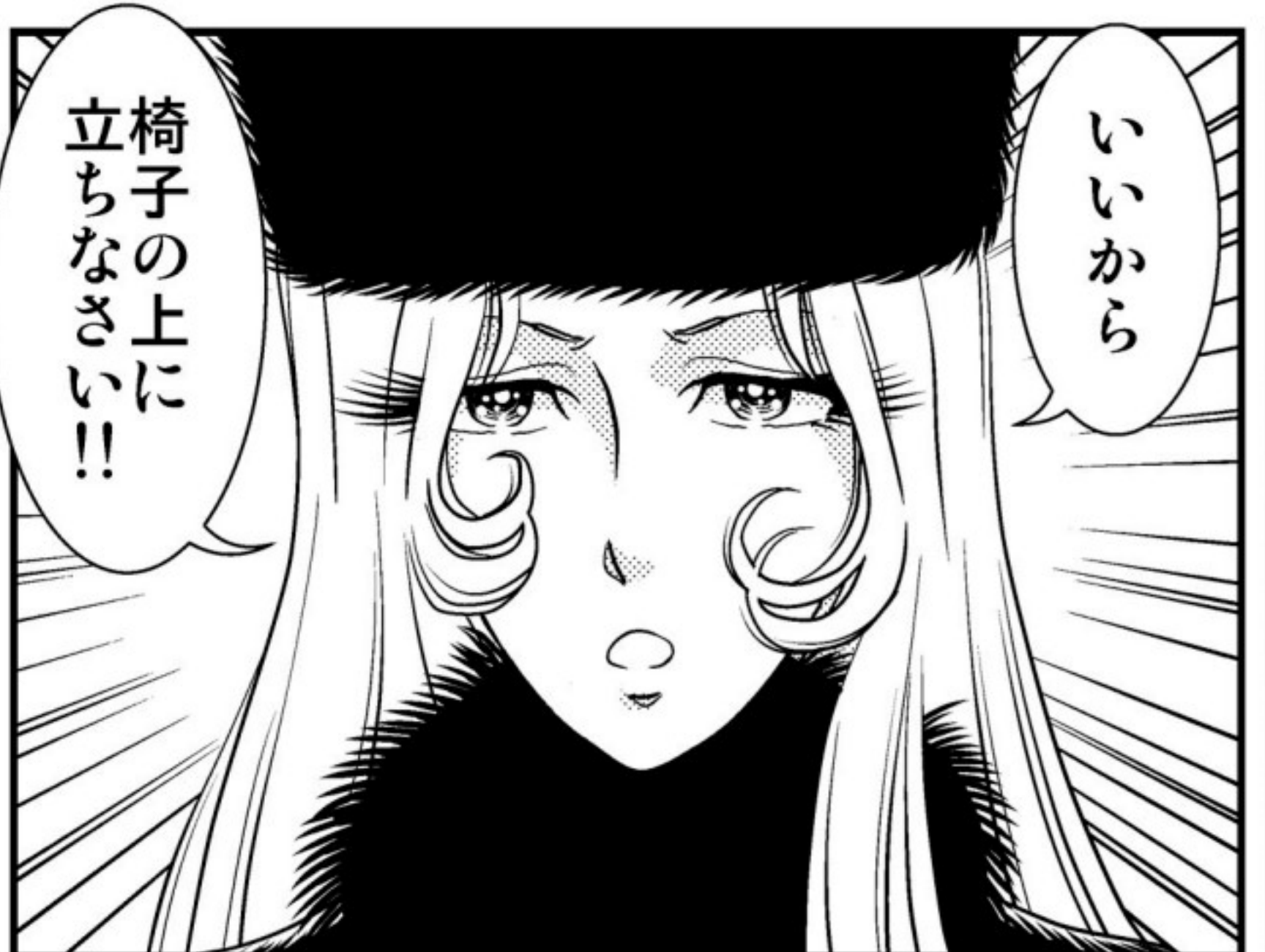


えっ!?

モギ
モギ



鉄郎…
椅子の上に
立って…

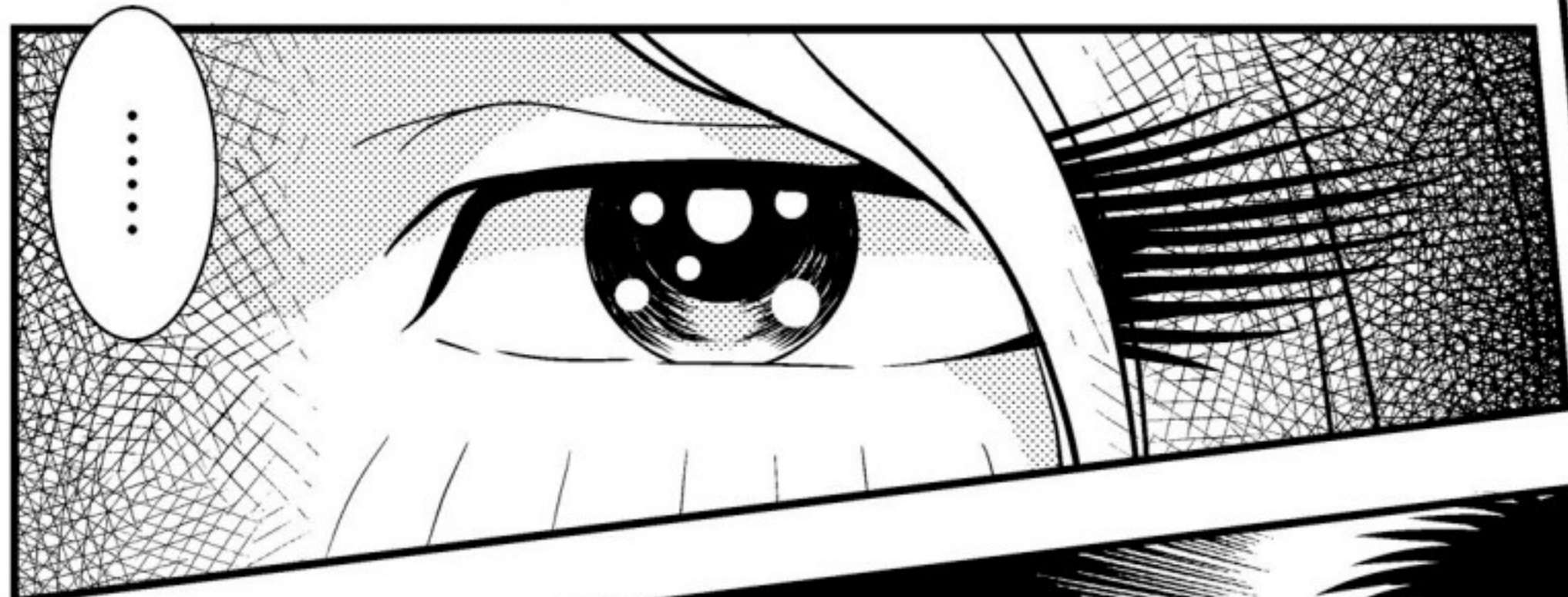


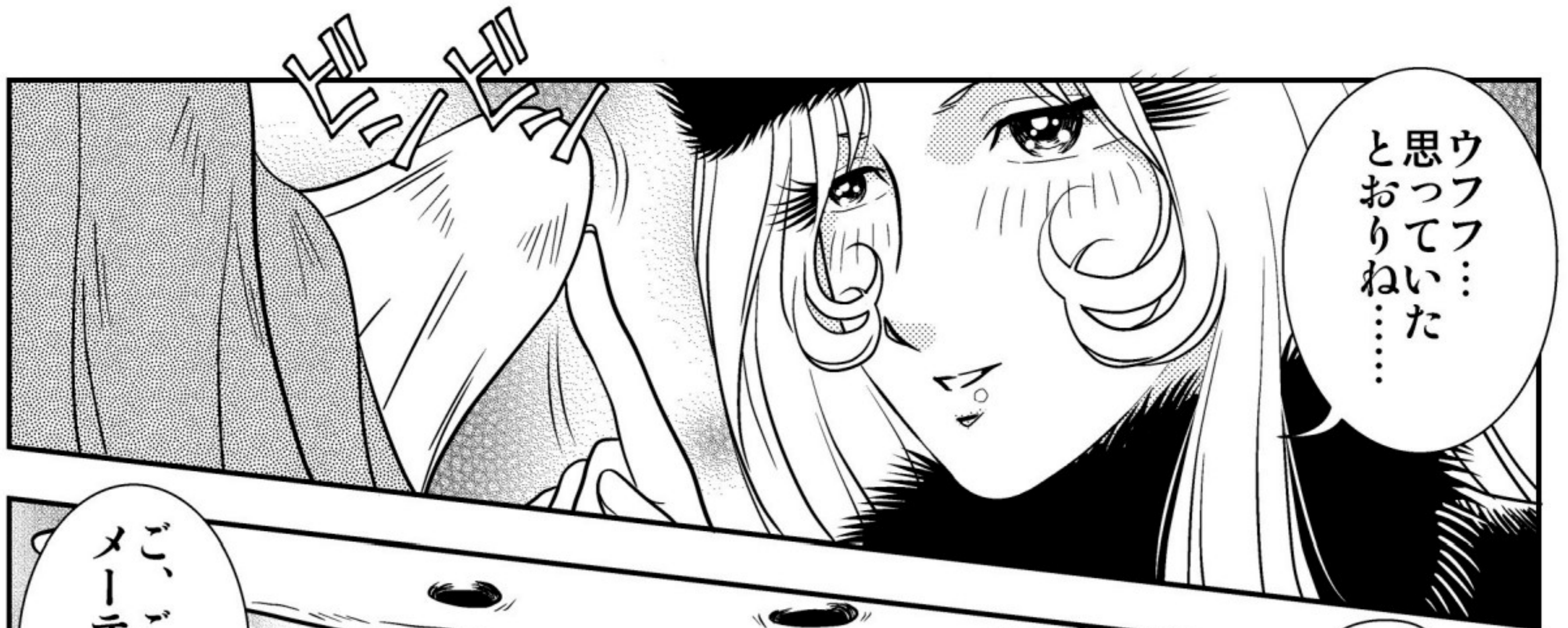
いいから

椅子の上に
立ちなさい!!



ご、ごめんよ…
怒ったのなら
あやまるよ…
メートル…



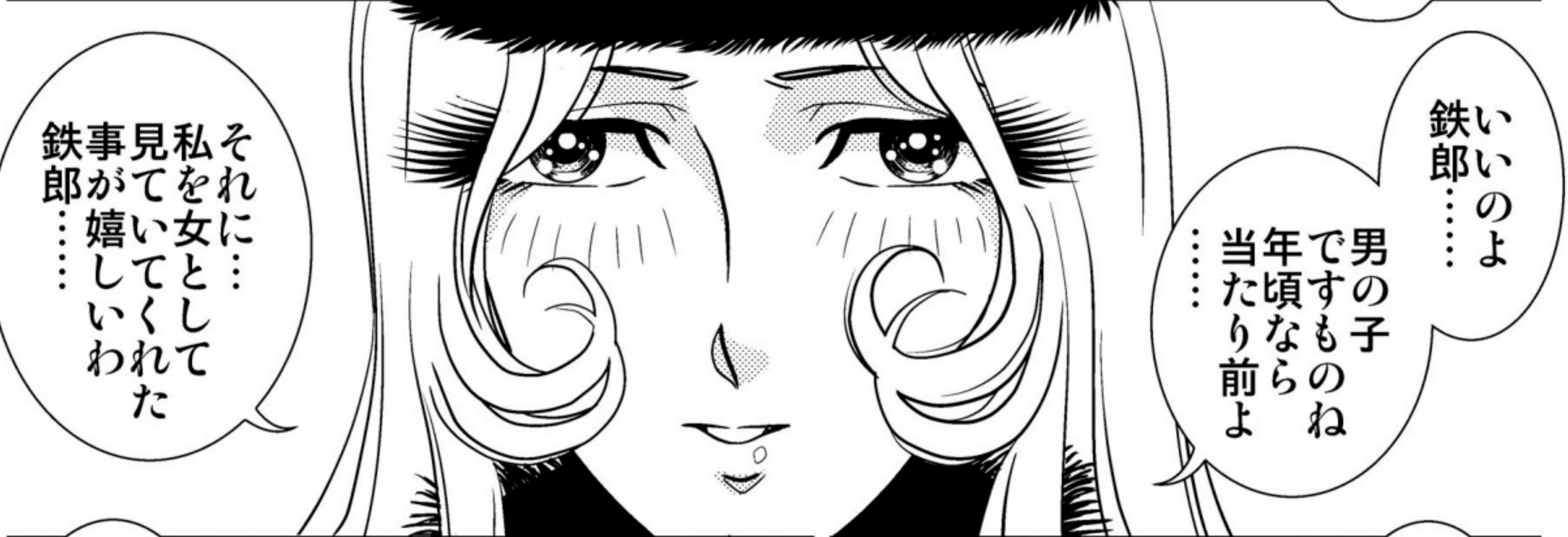


ウフフ…
思ってた…
とおりにね…



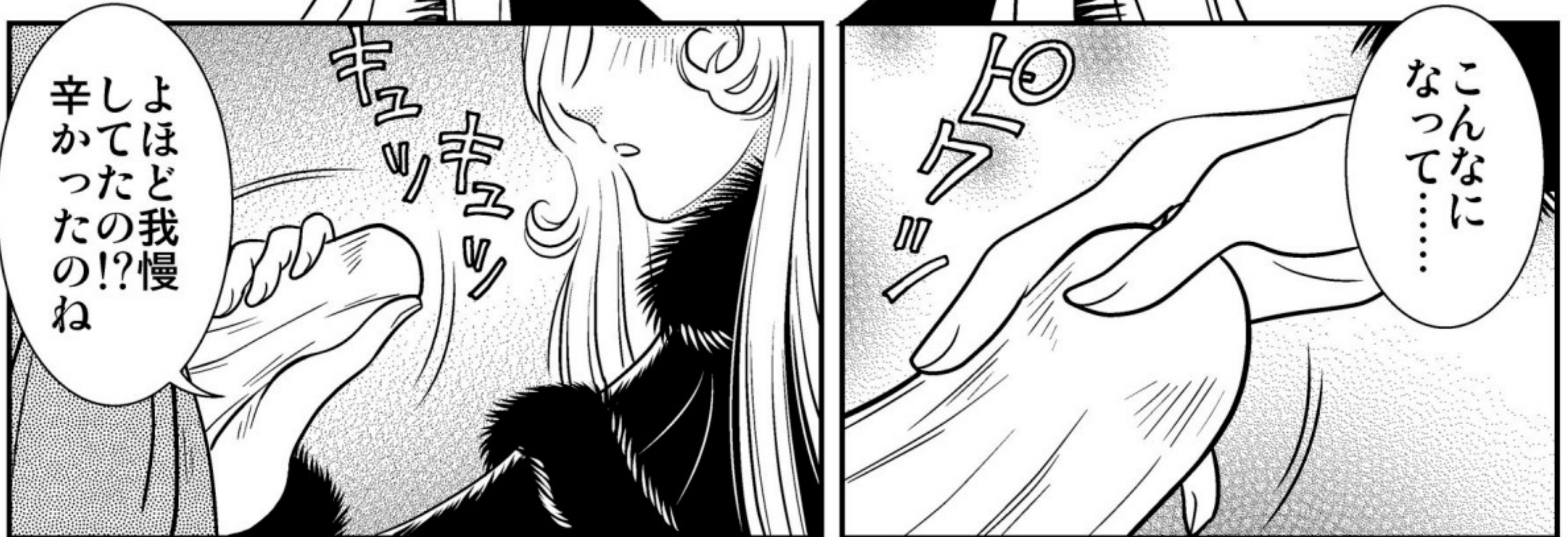
ご、ごめんよ
メーテル…

違う、
はんや
このは…



いいのよ
鉄郎…
男の子
ですものね
年頃なら
当たり前よ

それに…
私を女として
見てくれてた
事が嬉しいわ
鉄郎…

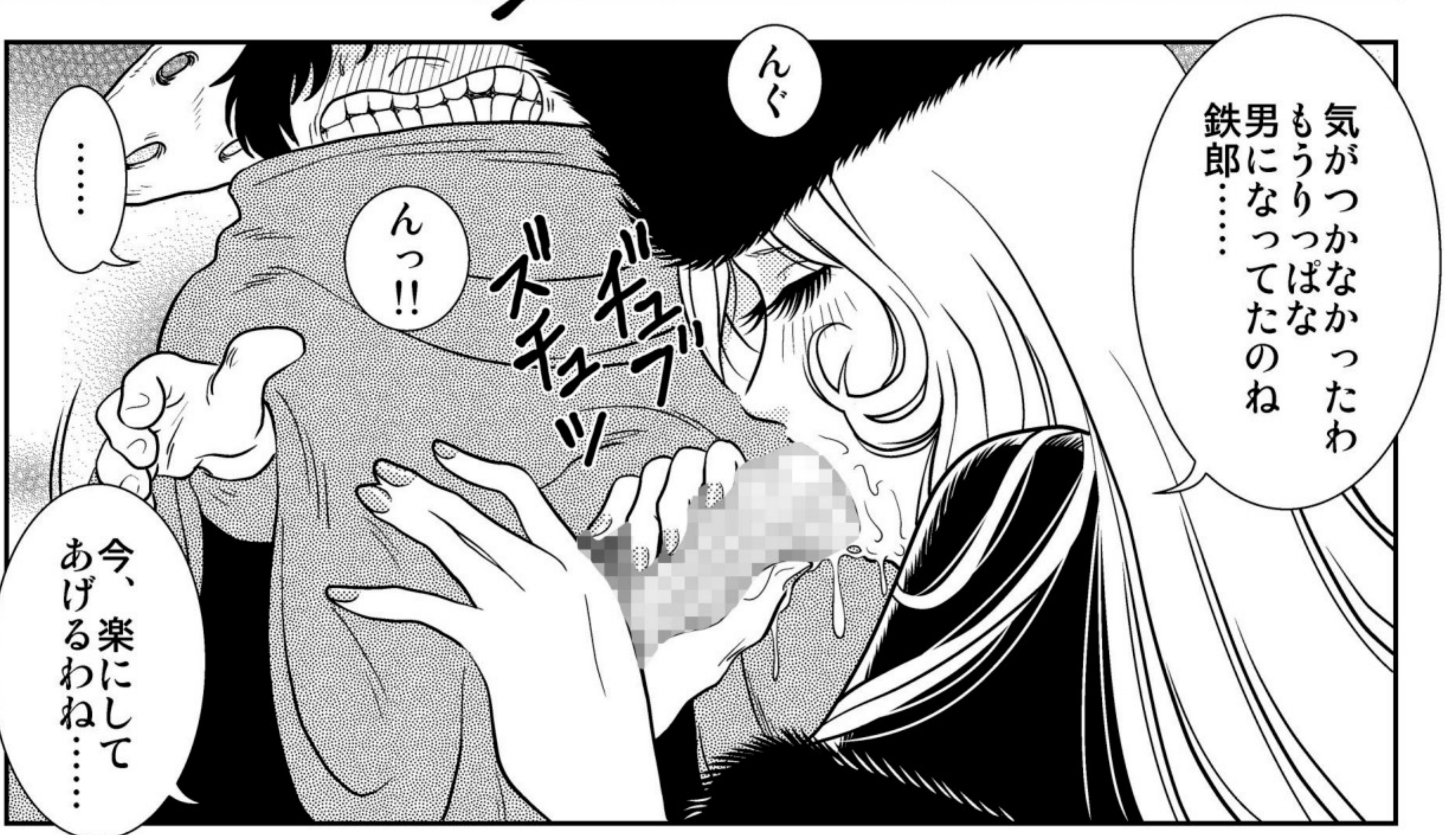
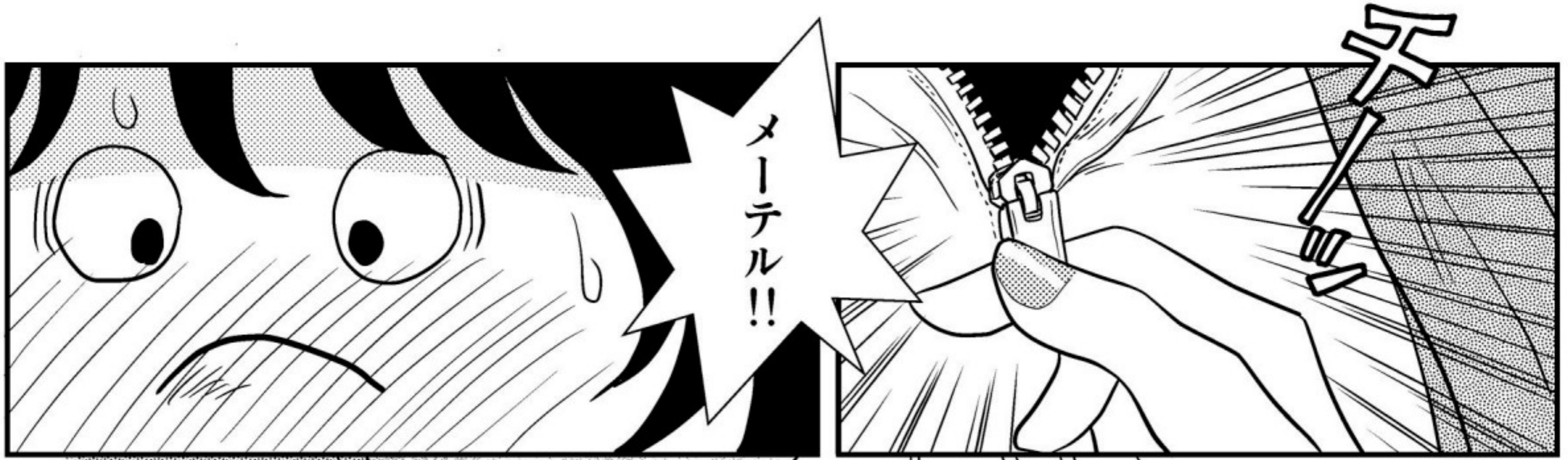


こんなになつて…

よほど我慢
してたの!?
辛かったのね



メ、
メーテル!?





メ、メータール

どう鉄郎……
気持ちいい……?

う、うう……

んっ!!

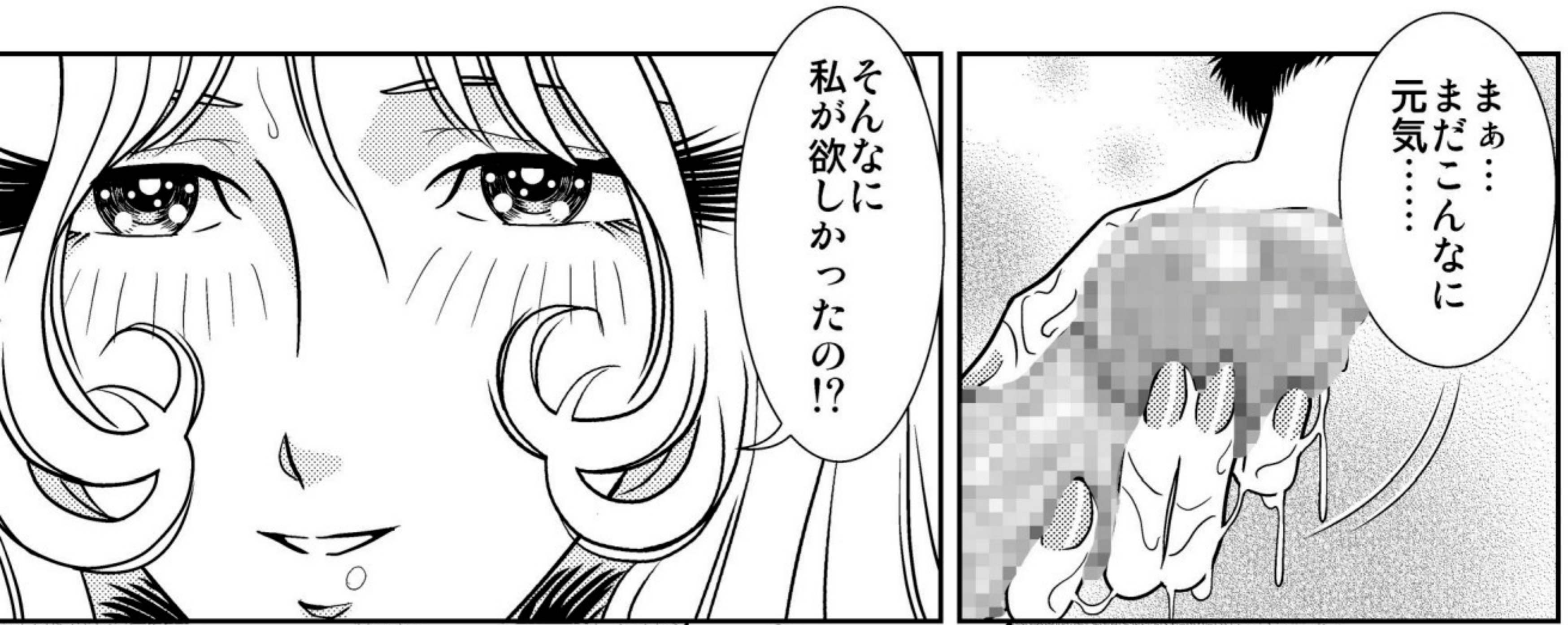
ん……

ううん……

ん……

すごいわ……
鉄郎……
口の中でさらに
大きくなってる

ふうん……



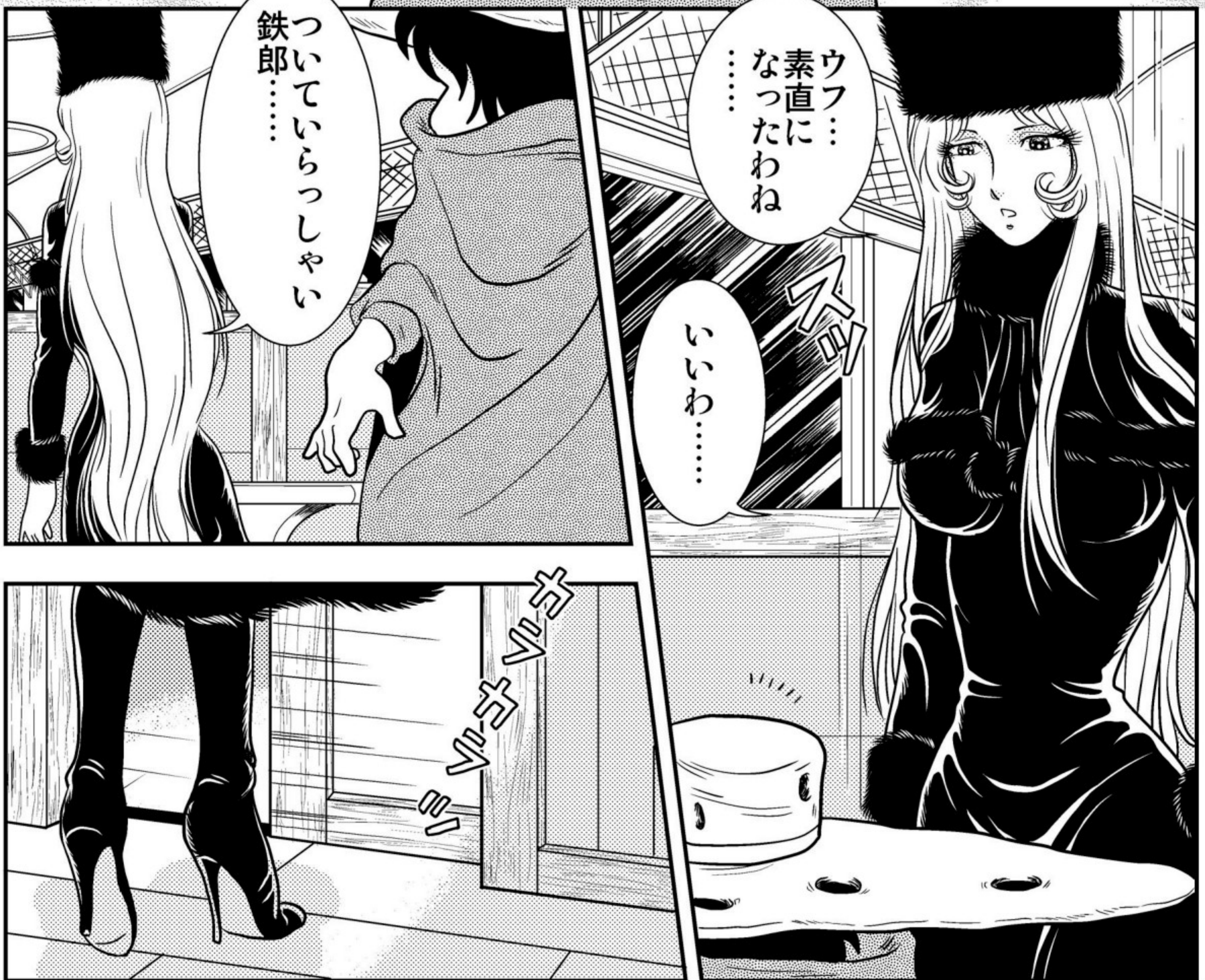
そんな
私が欲
しかったの!?

まあ…
まだこ
んなに
元気…



う、
うん!!

…



ついで
にいら
っしゃ
い
鉄郎…

ウフ…
素直に
なっ
たわ
ね

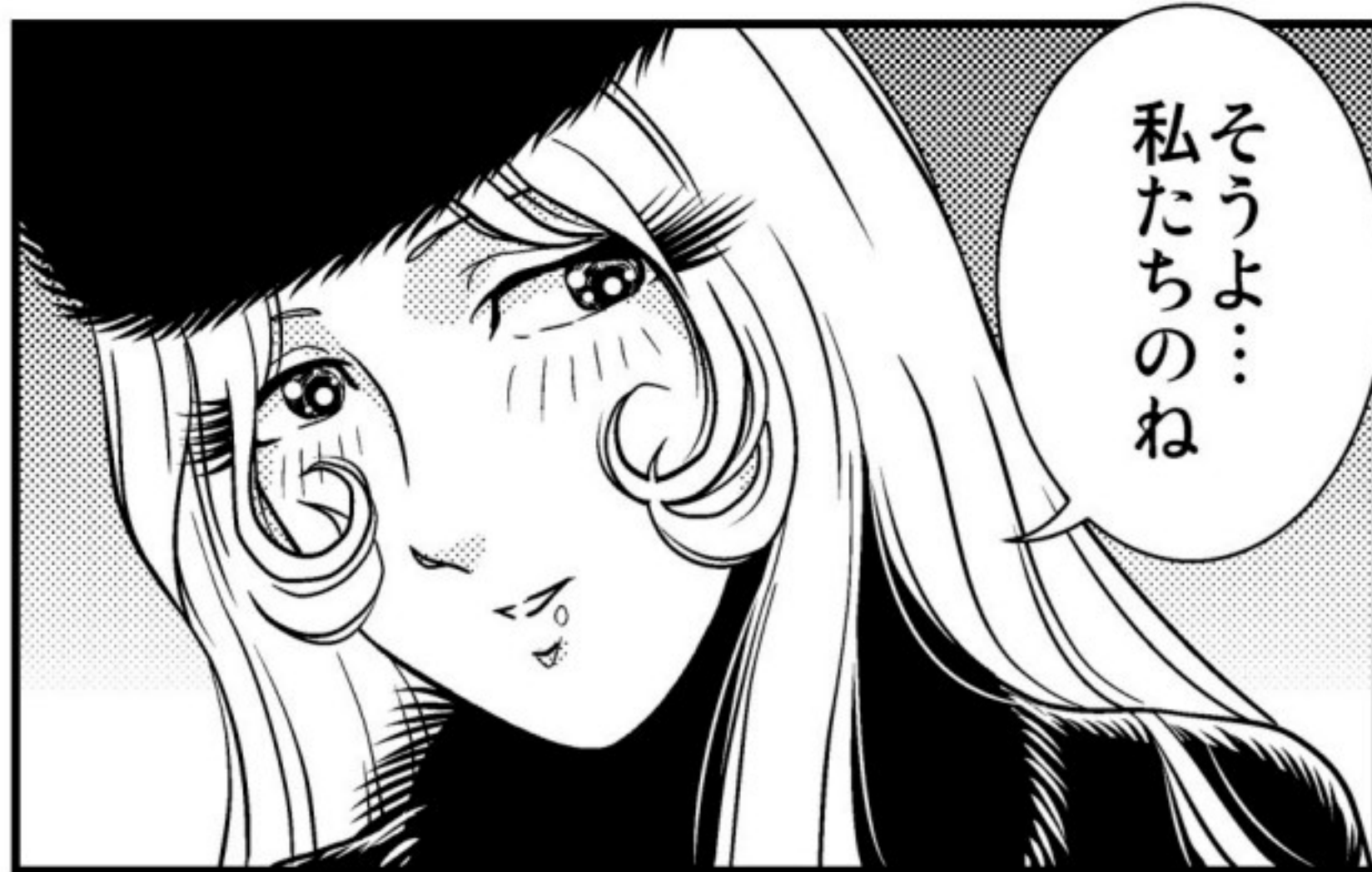
い
い
わ…

カ
ン
カ
ン
カ
ン



ここは…!?

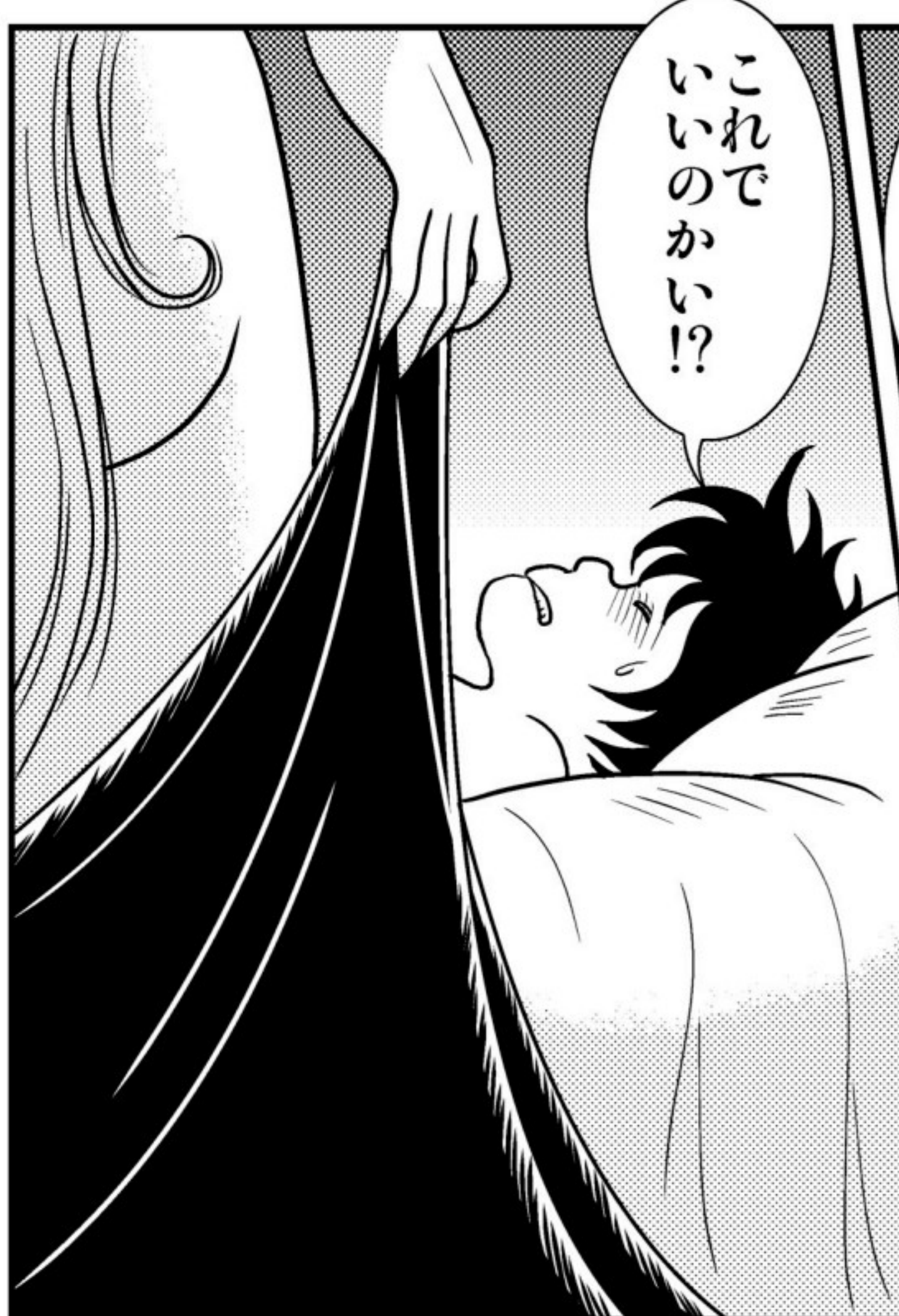
車掌さんに
頼んで個室の
寝台車を用意して
もらったのよ



そうよ…
私たちのね



個室の
寝台車!?



これで
いいのかい!?



さあ鉄郎

服を脱いで
ベッドに
横になって



う、うん…



そんなにかたく
ならなくても
いいのよ……

体の力を抜いて
リラックスなさい

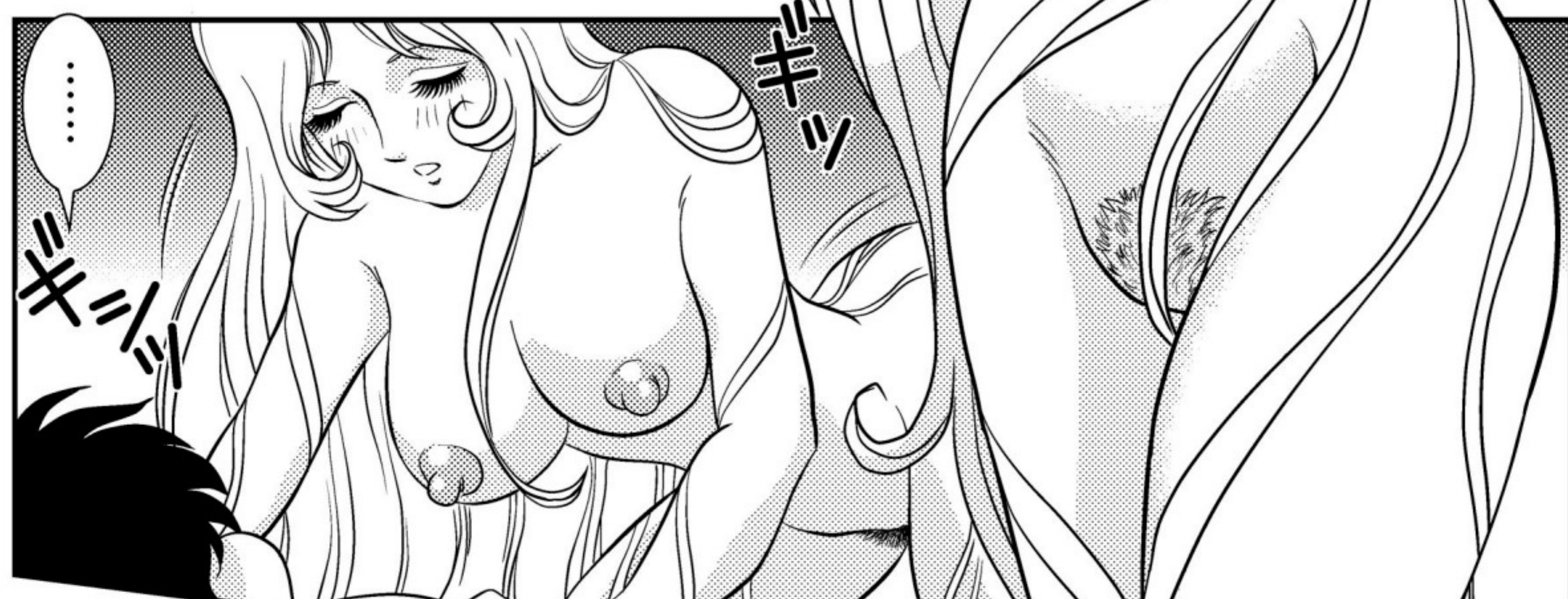
後悔は
しないわね
鉄郎……



ぼくんは……
メーテルと
決めたんだ
ためたんだ



ありがとう
鉄郎……

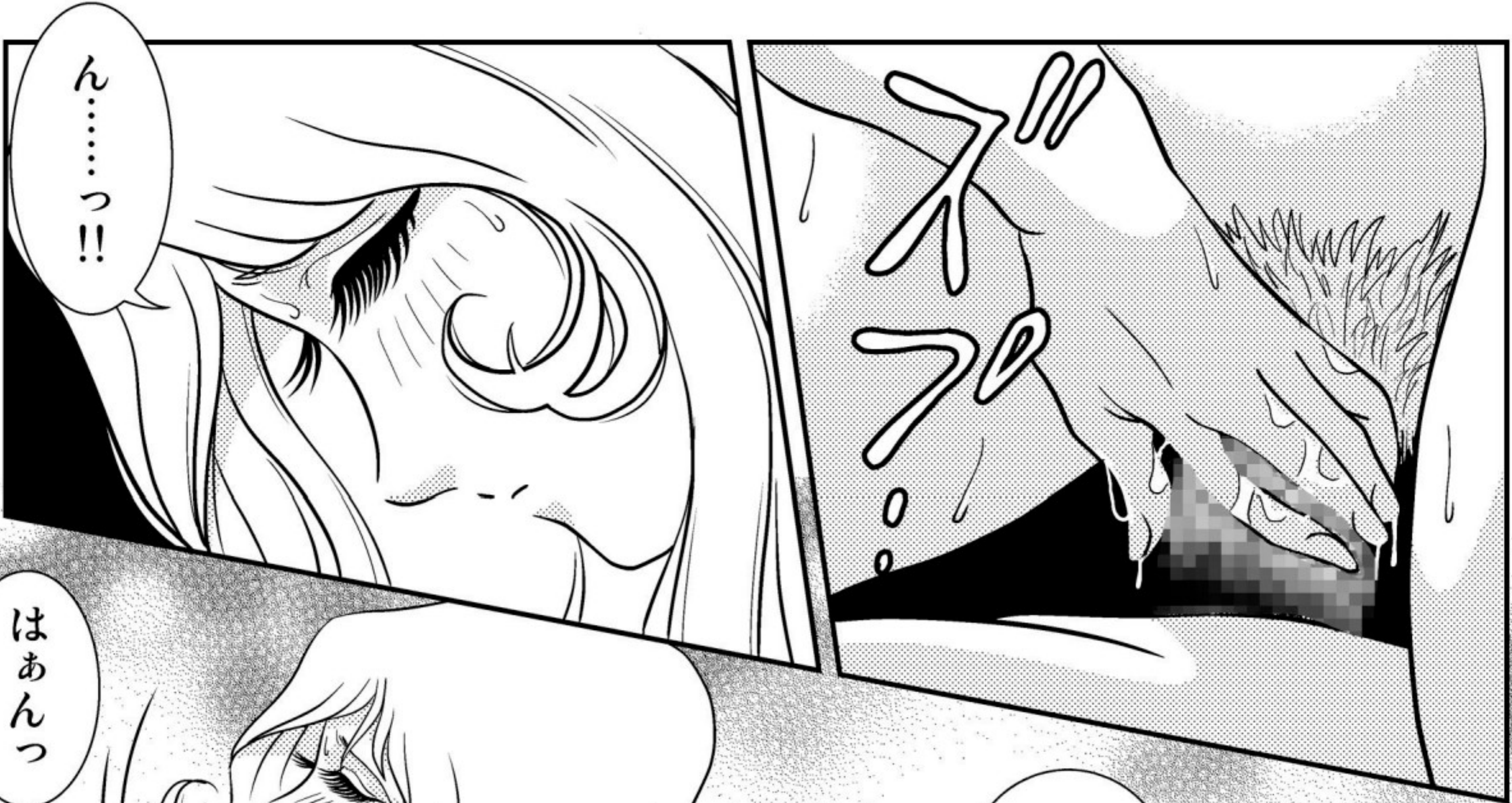


ギツ

……



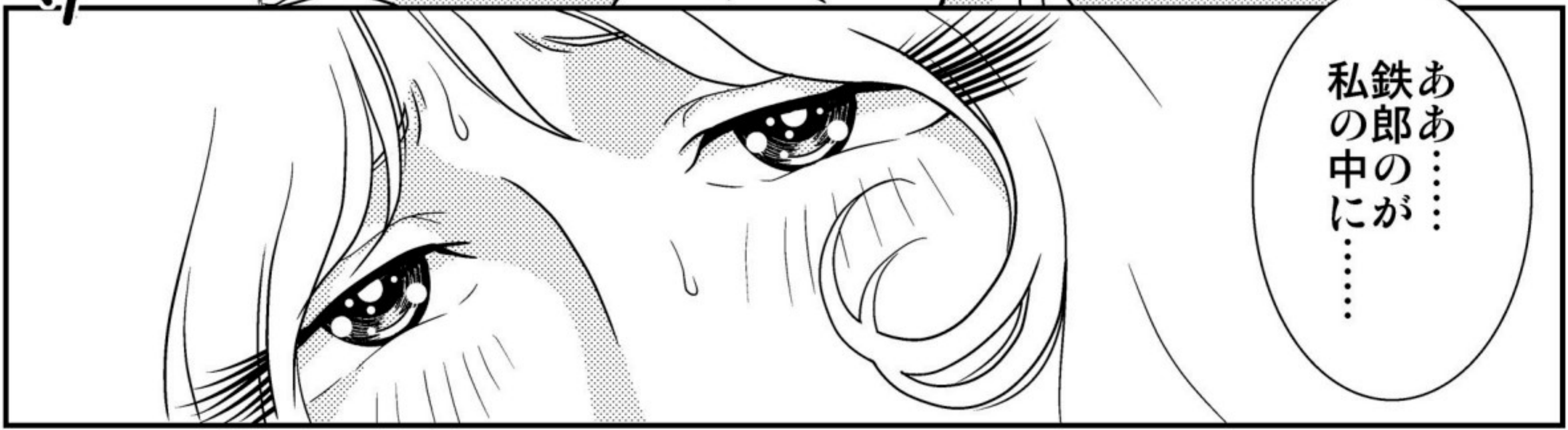
鉄郎……



はあんっ

う……

ア
アッ
アッ



ああ……
鉄郎の中……
私……

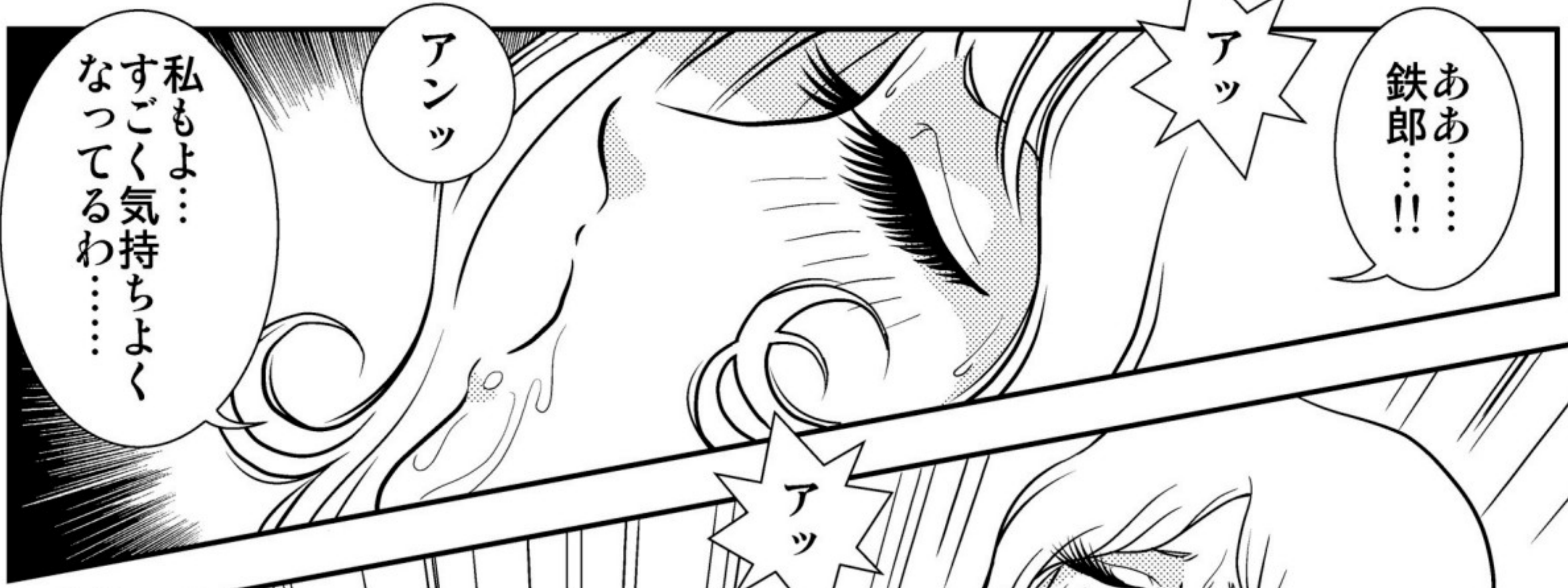


メートルの中
とつても
柔らかくて
あつたかいや
……

ハア

ハア

すごく
気持ちいいよ
メートル……



ああ……
鉄郎……!!

アッ

アンツ

私もよ……
すごく気持ちよく
なってるわ……



ああ……鉄郎
いいいいわ……!!

アッ

アンツ

アッ

はあん

鉄郎

アッ

アンツ

ああ……鉄郎……!!
す、すごいわ……!!

アッ

いっぱい……
奥まで……いっぱい
入ってくるわ……っ!!

アーンツ

アッ

アッ

アーンツ

うっ!!



その後も
元気を
取り戻した
鉄郎は私を
再び求めてきた

あ…ああん…
鉄郎…

も、もう…
これ以上は…
無理よ…

まだだよ
メーテル…
ぼくは…まだ
満足して…
ないんだ…!!

ハア

ハア

ああ…鉄郎
で、でも…これで
十回目よ…

アッ

アッ

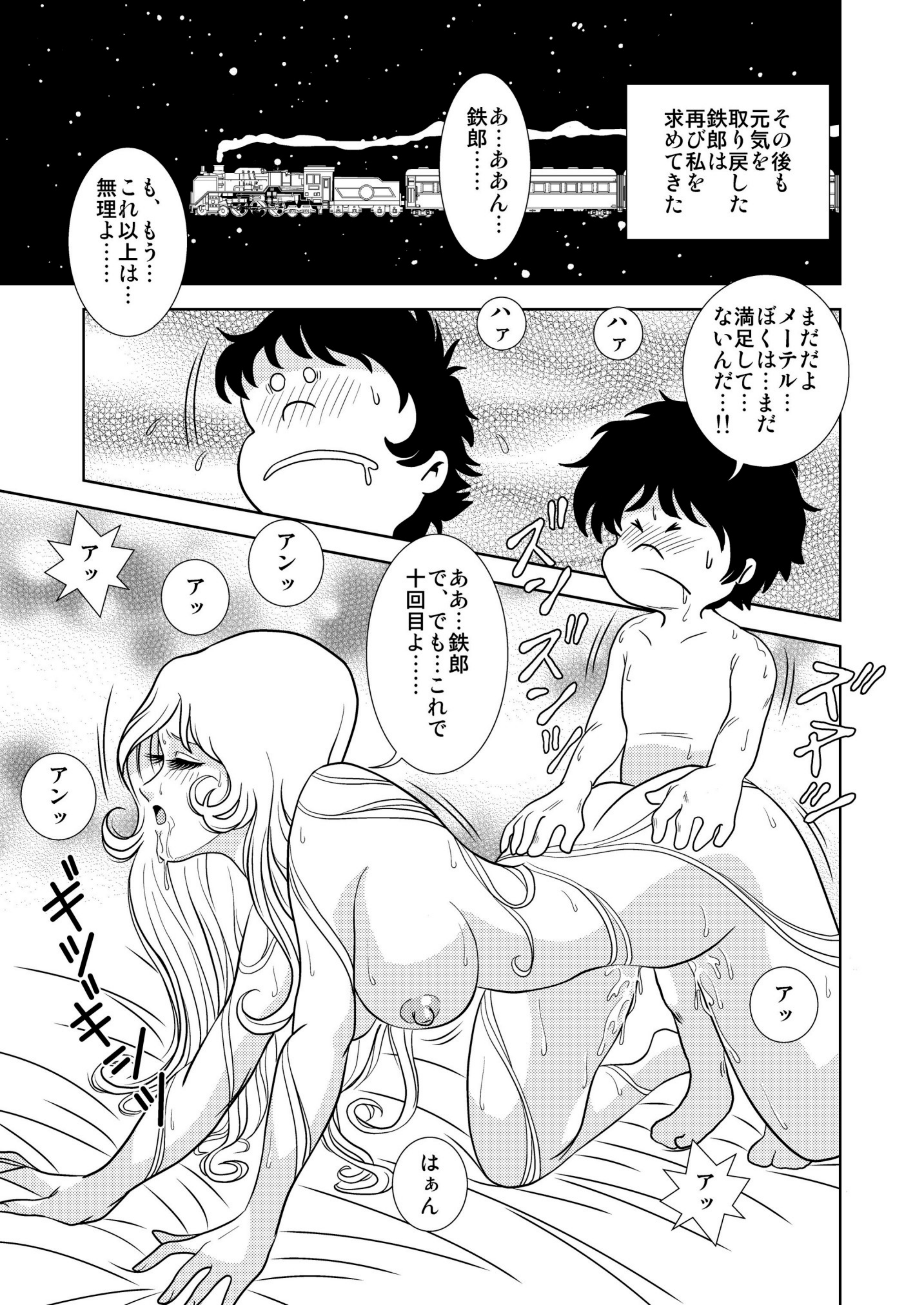
アッ

アッ

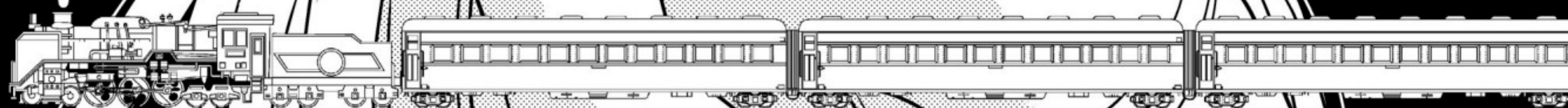
アッ

はあん

アッ



鉄郎は休むことも
無く：
ただひたすらに
名前のごとく
鉄のようにな：
硬く熱い逞しい
モノで：
私を貫き続けた
：



私たちの旅は
始まったばかり
でも：
終着駅まで
私：
体がかかしら
：

EYD

